

# ライティングセンターによる 学習・研究支援

広島大学図書館 上田大輔

# 広島大学ライティングセンター概要

---

ミッション	学部生から大学院生・教員まで、段階に応じたアカデミックライティングスキルの向上を支援することにより、教育・研究の総合的な機能強化を実現する。
設立	2013年
場所	中央図書館 1F
主なサービス	<ul style="list-style-type: none"><li>日本語・英語の授業課題、レポート、卒論、修論、博論等の個別相談(ライティング相談)</li><li>英語投稿論文の個別相談(英語論文作成相談)</li><li>グループでの執筆論文のフィードバック(ライティンググループ)</li><li>セミナー・ワークショップ</li><li>英文校正費補助</li></ul>

---

# ビジョン2035との関係

重点領域2. 知の交流:新たな知を紡ぐ<場>の提供

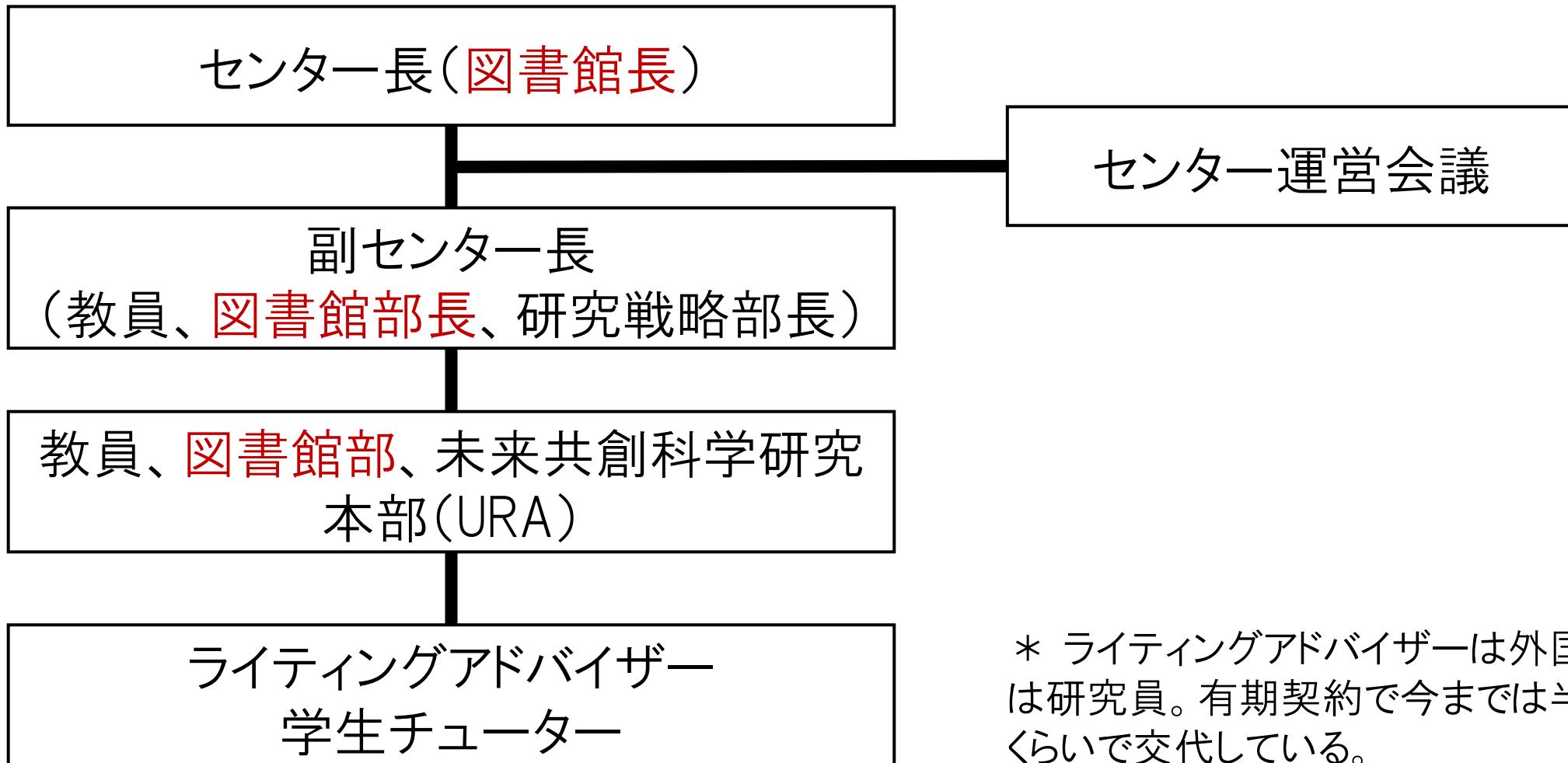
目標2-2 さまざまな能力を有する

- ・**学生・教職員等と図書館職員が協働し**
- ・**教育・研究の変化を的確に捉えた**
- ・**質の高い支援を充実させる**

ことにより、多様な知の交流と創出を促す

# 1. 学生・教職員等との協働

# ライティングセンターの体制



\* ライティングアドバイザーは外国人で職名  
は研究員。有期契約で今まででは半年～数年  
くらいで交代している。

# 主な役割分担

教員(2(1)名)	授業、英語論文作成相談、ワークショップ、学生チューター・ライティングアドバイザーの採用、学生チューターへのアドバイス
図書館職員(2~3名)	【学習支援】学生チューターの採用、勤務管理、ライティング相談の企画・運用、セミナー等の企画・実施補助
URA・研究支援担当職員(2~3名)	【研究支援】ライティングアドバイザーの採用・勤務管理、英文校正費補助、セミナー等の企画・実施
ライティングアドバイザー(2(1)名)	英語論文作成相談、ライティンググループ、ワークショップ、セミナー等の企画・実施
学生チューター(24名)	ライティング相談の実施、新人チューター研修、広報、オリエンテーション・チューターワークショップの実施

\* 教員・職員・URA・アドバイザーでの会議は月2回。学生チューター・教員・図書館職員の会議は週1回

## 2. 質の高い支援の充実

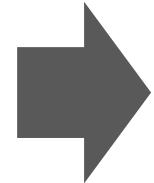
# 大学図書館に求められる支援とは？

## 本質的な価値

顧客が本当に求めているのはドリルそのものではなく、それによつて生まれる『穴』という価値である。

by T.レビット

学生が本当に求めているのは資料そのものではなく、それによつて生まれる『レポートや論文』という価値である。



## 求められる支援

動画コンテンツの充実や生成AIの登場等により、資料の価値が相対的に下がっている状況で、大学図書館は「場」を活用して、

学生にどのような直接的な学習支援を提供できるか

が、今後より問われるのでは？

# アカデミックライティングに特化した支援

- レポートから投稿論文まで幅広い学術文章を網羅
- ブレインストーミングから完成原稿までの各段階を支援
- 文章をチューターが直すのではなく、自分で学術文章が書けるように
- 「学術文章を書くことに困ったらライティングセンターに来て」という（ある意味明確な）メッセージ



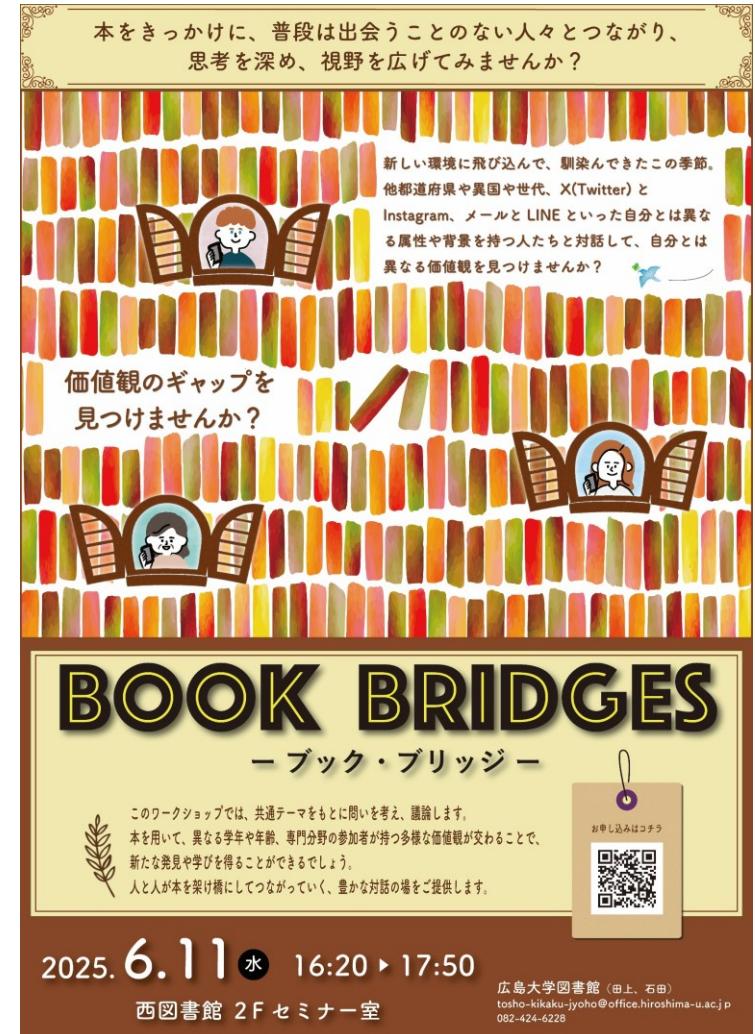
# (参考) そのほかの学習支援



英会話イベント: 図書館でEnglish



テーマについて議論する: Book Bridges



# 図書館という「場」のメリット

- ・学生にとって学習をする場であるという認識
- ・多くの多様な学生を集客できる
- ・図書館とライティングセンターの利用者は親和性が高い？



リアルな「場」としての図書館は、(まだ)学生および学習支援の提供者にとって魅力がある

### 3. 教育・研究の変化を捉える

# 継続は現状維持ではない

## ライティング相談の事例

2015年	英語文章に対応するため、英語ライティング相談を開始(日本語チューターの兼任) 他キャンパスへのサービス提供のため、オンライン相談を導入
2016年	業務効率化のため、ライティングセンター予約・管理システムを構築
2021年	CRLAのITPC審査に合格し、国際的なチュータートレーニングプログラムの実施機関として認定
2022年	英語ライティング相談の拡充を目的として、留学生による英語ライティング相談を本格実施
2023年	コロナ禍で利用者が落ち込んだため、利用者層の拡大を目的としてコメントサービスを導入

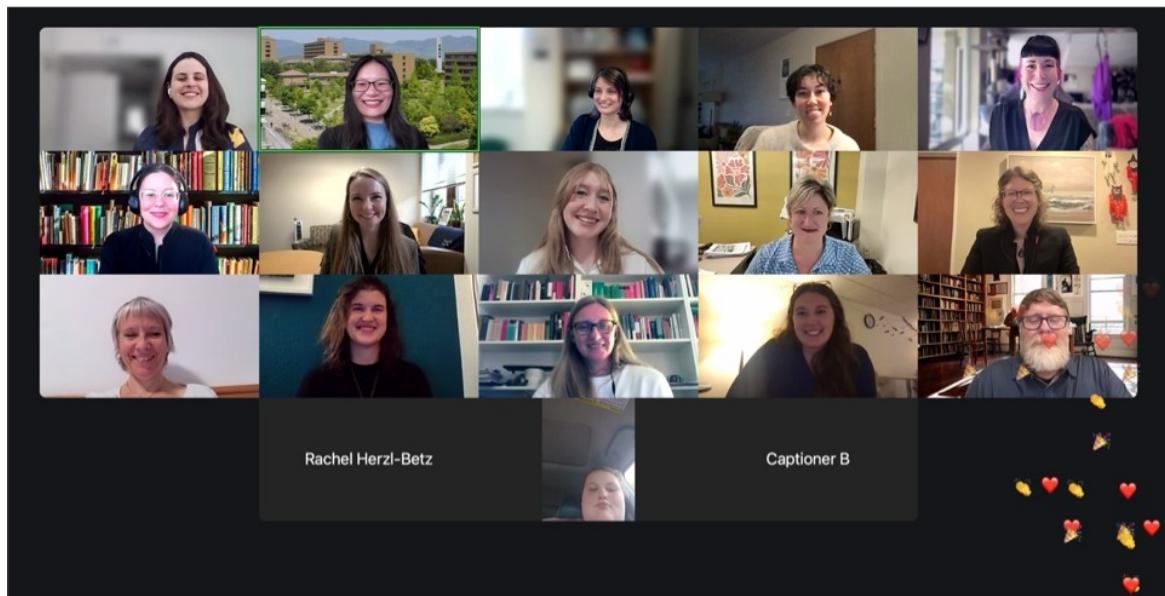
# CRLAによる国際標準のチューター育成 プログラム認定

- ライティングセンターが The College Reading & Learning Association (CRLA) から国際標準のチュータートレーニングプログラムの実施機関として認定
- 国内では3番目の認定。ライティングセンターとしては国内初
- 一定要件(研修受講数、チュータリング実施時間数)を満たした学生チューターに認定証を提供
- 学生のモチベーションアップにつながる(就職等のアピールとしても)



# 今後の大きな変化への対応

アカデミックライティングまたは大学での教育・研究の中で、生成AIはどのように使うことができるのか？また、どのように制限されるのか？それによって、大学での教育や研究はどのように変わるのか？



International Writing Centers Association (IWCA) Annual Conference 2024 “Technology-enhanced Writing”

医療政策室・ライティングセンター共催セミナー

# AIエージェント時代における 研究の卓越性の再定義

日時・会場

西キャンパス

2025年9月3日（水）

【英語】15:30 - 16:30

【日本語】17:30 - 18:30

会場：医学部第5講義室

対象：広島大学の研究者・※大学院生も参加可

- ・医系科学研究科・病院合同FD
- ・新任教員研修プログラム対象

※審査証をお持ちください。

※英語と日本語の講義内容は同じです。

AIエージェントが伝説を立て、実験を設計し、論文まで書いてしまう時代になりました。そうなると、これまで重視されてきたインク/ファッターや論文数といった指標にどんな意味があるのでしょうか。本講演では、自個別研究を進めるガバナンスの登場、私たちの「技術に対する責任とは何か」「研究者自身の責任とは何か」など様々な考え方をどう捉え、どう扱うのかを考えます。最新のAIエージェント技術の動向や、新規性を評価する方法、AIの倫理やAIの理屈をもとに、AIが如何に社会に貢献できるか、新しい研究の進め方と評議の枠組みを検討します。AIの力を最大限に活用しながらも、人間社会の貢献をどう評量し、活かしていくか。研究開発がどうべき路線と、AIの進歩に沿って人間との役割を再定義する質的評価の重要性について議論します。

講師

トム・ガリー Tom Gally

東京大学医学部社会文化初歩科・教養学科の教員として、アカデミック英語とロケラルの開発・運営に携わった。現在は東京大学各教員、両大学グローバル教育センター特任教授。学術セミナーの運営から、大学における英語教育と機械翻訳・生成AIの問題について研究を重ねて行っている。個人サイト：[gally.net](http://gally.net)

券売機はこれら

申込み・問合せ：広島大学ライティングセンター

未登録先申込料無料研究科 研究科幹事会企画部門（ライティングセンター担当）

Registration: [www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/](http://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/)

E-mail: [wrc-research@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:wrc-research@office.hiroshima-u.ac.jp)

# 生成AIで論文を書くとすると、どんなライティング支援が求められるのか？そもそもライティング支援は必要なのか？

AIを使ったあとに相談に来る学生もいますか？

AIとWRCの支援、どう使い分ければいい？

はい。AIは相談者の意見に寄り添った文を作りますが、レポートを評価するのは第三者。チューターは「誰が読んでも伝わるか」を重視して一緒に文章を見直します。AIの文章は一見整っていても内容が浅く、つながりが弱いこともあります、相談者自身の言葉ではないと気づくこともあります。

学生チューターのコメント



Indah Islamiさん  
インダー・イスラミ

AIは情報収集に便利ですが、誤りもあるため、正確性の確認が必要です。WRCでは対話を通じて、相談者の「何を伝えたいか」を一緒に考えます。文章づくりのプロセスも学びの一環。少しずつ考えを整理し、自分の言葉で書けるよう支援します。最終的に文章の責任を持つのは自分自身です。



渡部 智成さん

色々な関連部署やステークホルダーと協力しながら、教育や研究の変化を見極め、その変化に対応して適切な支援を行うことが必要